

● 業務の実施方針

実施方針は、業務への具体的な取組体制・担当チームの特徴、工程計画・動員計画及びその他業務実施上の配慮事項を簡潔に記述すること。

赤村の魅力をも最大限活かし、「一緒に考え、一緒に作る」教育施設

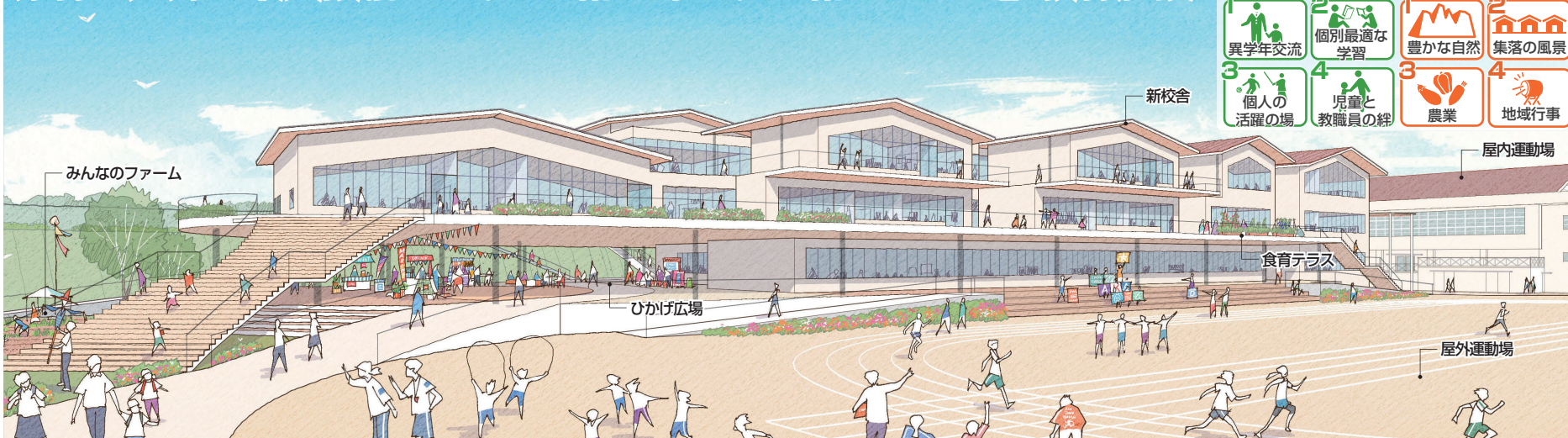
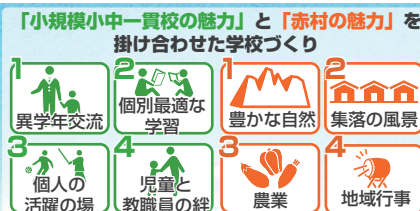


図1：南側外観。屋内運動場から連続する集落のような勾配屋根により、子ども達や地域住民の愛着と誇りを育む



1 業務への取組体制 対話を重ね、「つくるべき価値」を共有

私たちは、赤村の皆様と「一緒に考え、一緒に作る」を基本姿勢に対話を積み重ね、本質的、潜在的なニーズを汲み取り「新たな価値」の創出をめざします。

① ワンチーム：「地域と共にある学校」の実現のため、教育委員会、小中学校、地域住民、関係者の皆様と密に連携を取りながら、ワンチームとしての一体感を大切に、業務を推進して参ります。



図2：一体感のある業務の推進イメージ

2 担当チームの特徴、技術者配置の妥当性 学校施設の豊富な経験をもつ設計コアチーム+全社支援体制

近隣地域での学校建築の設計経験があり、地元理解のある九州支社担当者を中心に設計コアチームを編成し、迅速かつきめ細やかな対応に努めます。400件以上の学校施設の豊富な経験に基づく全社支援体制のもと、BIM推進室や未来環境デザイン室などの専門的知識を有するチームと連携し、業務に迅速かつ柔軟に対応できる体制を構築します。

- ① 総括責任者：新しい時代を見据えた学校、文教施設の知見と経験を持ち、マネジメント・コミュニケーション能力・コストコントロールに優れた技術者を配置。
② 意匠主任技術者：メディアセンターを中心とした学校施設等、子ども達の知的好奇心を誘発する施設を多く担当。地域と共にある学校づくりに長ける。
③ 構造主任技術者：近隣地域での学校施設の新築・改修の実績を数多く持ち、安全性と経済合理性を両立。
④ 電気設備・機械設備主任技術者：費用対効果を重視しながら地球・地域・人に優しいエコスクールを実現。

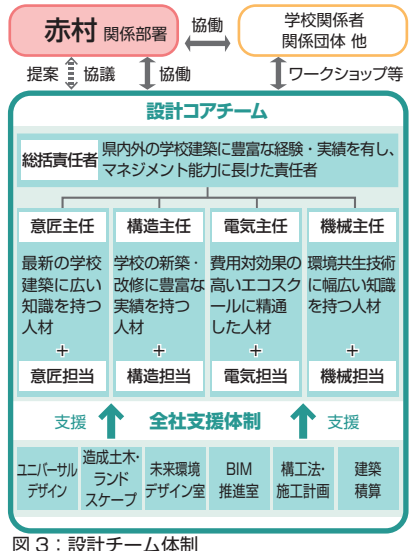


図3：設計チーム体制

3 その他業務実施上の配慮事項 業務を確実に推進し、品質を確保するための取組/SDGsへの配慮

- ① 比較検討型設計プロセス：設計初期に条件を明確化し、複数案を比較検討することで、客観的な視点から妥当性を検証し、最適解を導きます。
② わかりやすい資料作成：BIMを活用した3DCGや環境シミュレーションなど視覚的にわかりやすい資料により、相互の理解を深めます。
③ 密度の高い打合せ：綿密な対面の打合せに加え、効果的に大人数で情報が共有ができるWeb会議やクラウドサービスを併用し、打合せや情報共有の密度を高めます。
④ SDGsへの取り組み：地域に愛される学校として、ユニバーサルデザインの徹底、働きやすい執務空間、インクルーシブ教育、木材利用推進を行います。

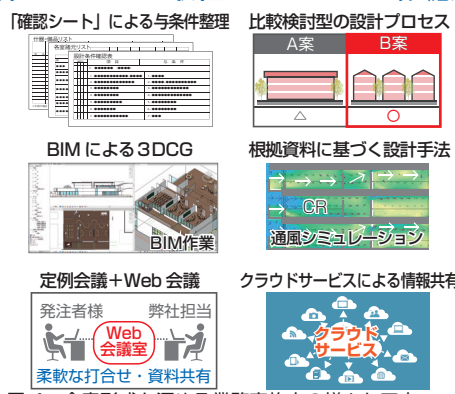


図4：合意形成を深める業務実施上の様々な工夫

4 その他業務実施上の配慮事項 工事期間中の良質な学習空間の維持と安全性の確保

- ① 全工事期間中の「良質な学習環境・安全確保」：一連の工事のどの時点でも安全、かつ良質な学習空間の確保に細心の注意を払う工事計画とします。工事フェーズに応じて、児童生徒と工事車両の動線が交錯しない計画とし、歩車分離を徹底した安全な計画とします。新校舎への引越しや屋外運動場の整備は長期休みを利用した工程とし、学習・遊びの環境をできるだけ損なわない計画とします。

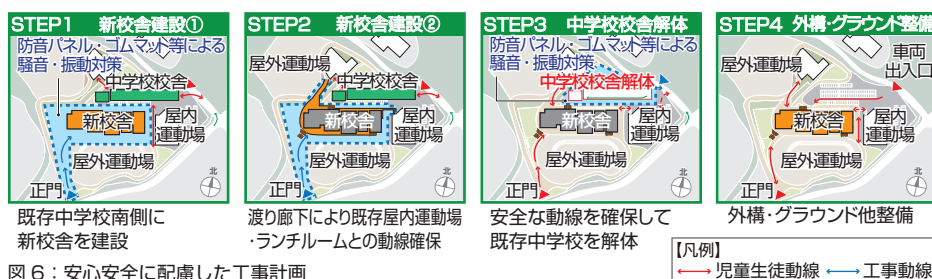


図6：安心安全に配慮した工事計画

5 業務への取り組み意欲 新たな地域コミュニティの核を醸成するための継続的な支援

- ① ワークショップの開催：子ども達や地域住民に参加いただき、各々の視点で新しい学校のあり方を議論するWSを提案します。また工事期間中の現場説明会や設計者による出張授業などを通して、子ども達や地域住民への発信支援を行い、新たな地域コミュニティの核となる学校の実現を目指します。
② ガイドブックづくり：地域連携等の新たな価値を長期的に有効活用するためのガイドブックを作成します。地域利用時や教職員の赴任時などに新しい学校の使い方を伝えるツールとします。

「みんなで作る！赤村みらい会議」ワークショップ (WS)



図7：「一緒に考え、一緒に作る」取組の例

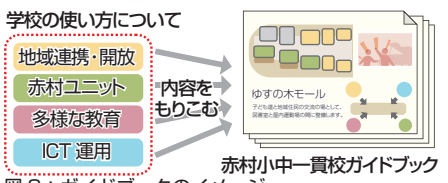


図8：ガイドブックのイメージ

6 工程計画の妥当性・動員計画の妥当性 着実な合意形成と適切なコスト管理による手戻りのない設計プロセス

- ① フロントローディングによる業務推進：計画初期に徹底した課題の抽出を行います。総合的に解決していくフロントローディングの手法を採用することで、手戻りのない効率的な業務推進を行います。
② 「基本仕様+付加仕様」を区分したコスト管理：計画初期段階から当社の豊富な学校実績に基づき工種ごとに予算を割振りします。基本仕様と付加仕様の積上げという2つの手法により概算を繰り返し、コストと品質のバランスのとれた設計を行います。
③ 入札不調や工期遅延リスクの回避：近年全国的に、入札不調や労務不足、鉄骨等の資材調達難、「働き方改革」に伴う工期遅延が頻発しています。本計画では地域事情等を踏まえながら、汎用性の高い工法の選択、品質・工期が安定した工場製品の採用を検討し、確実な業務遂行を目指します。
④ ゆとりある工事発注期間の確保：課題の早期抽出と総合的な解決により、設計業務期間を1ヶ月短縮し、ゆとりある工事発注期間を確保します。

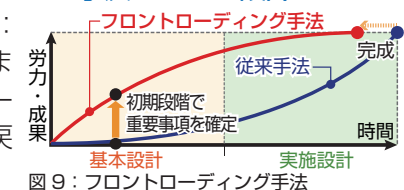


図9：フロントローディング手法

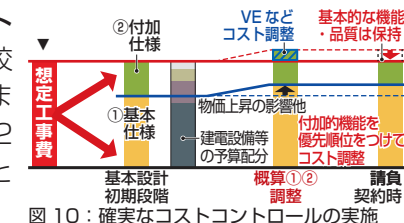


図10：確実なコストコントロールの実施

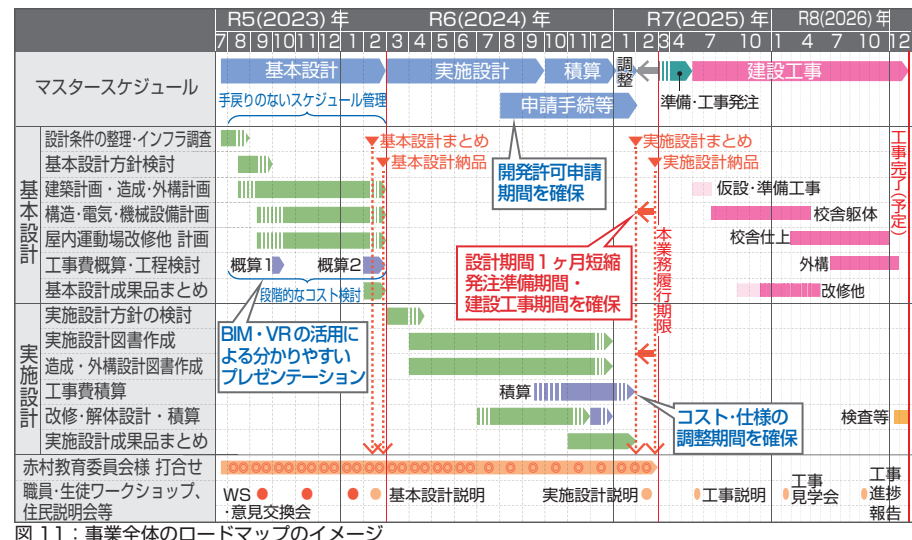


図11：事業全体のロードマップのイメージ